

文法をやさしく

ぶん ぼう

第4回 やりもらい(2) Nは※NにVてあげる

だい かい

学習段階：初級後半

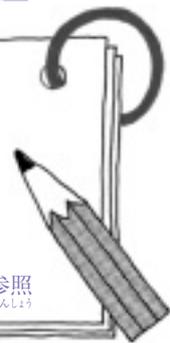
がくしゅうだん かい しょきゅうこう はん

キーワード：授受表現、ヴォイス、恩恵、人称制限、視点

じゅ じゅひょうげん おんけい にんしやうせいげん してん

※23ページ「3. 恩恵の受け手」参照

おんけい う て さんしやう



今回は「Vてあげる」を中心に、やりもらいの文型について考えてみましょう。

1. 「Vてあげる」が使われている例

2002年の夏、日本では一匹のアザラシのことが話題になりました。アザラシはもともと北極の近くの海に住む動物です。そのアザラシが横浜の川で見つかり、多くの人の関心を集めました。そして、見つかった川の名前にちなんで「タマちゃん」と呼ばれました。それでは、次の新聞の記事を見てください。

ぼくは、タマちゃんが川に流されたらあぶないし、かわいそうだと思います。だから水族館かどこかで飼ってあげたらいいなと思っています。

(大阪市・小学五年生・全文)

お母さんとはなれてさびしいと思うけど、北極に帰るまでわたしたちが**見守**ってあげるから、がんばれ!!

(千葉市・小学三年生・全文)

朝日小学生新聞 10月1日 p.1 朝小読者からのがみ欄
あさひしょうがくせいしんぶん がついついたち あさしょうどくしや らん

(下線は荒川・木山による)

飼う……to keep animals

見守る……タマちゃんのことを心配しながら見ていること

例文の二人は、アザラシのために人間ができることを

考えて新聞社に手紙を出しました。二人の意見は違いますが、アザラシにとってよいことを考えている点は同じです。それが、それぞれ「見守る」ことであり、「飼



う」ことだということです。「Vてあげる」は、動作を受けるものにとってよいことだと考えて行うときに使います。

しかし、同じ内容について述べる文でも公式の場面の報告では以下のように「Vてあげる」は使われません。

……アザラシの保護策などを検討する(中略) 横浜市などによる会議が26日開かれ、「アザラシは元気。当面は温かく見守る」と、確認した。異変が確認されれば、改めて会議を開き、検討する。

8月27日毎日新聞朝刊 p.30 「タマちゃん? 当面保護せず」

(下線は荒川・木山による)

横浜市……地名 保護策……タマちゃんを守る方法
検討する……話し合って考える 当面……しばらく
～と確認した……ことにした

このように同じ「見守る」という動詞でも、場面によって使い方が違います。子どもたちが「Vてあげる」を使ったのは、「タマちゃん」に対して親しみを感じているからです。「Vてあげる」は個人的な親近感を感じる相手に使える表現であると言えます。

家族の間でも次の例のように使われます。これはおじいさんが泣いている孫をなだめていることばです。

「これはおじいちゃんが悪かった。よしよし、絵本を

読んであげるからね……」

井上ひさし『浅草鳥越あずま床』新潮文庫 p.213 18

(下線は荒川・木山による)

よしよし……「いいよ」という意味で小さい子どもに使うことば

2. 「Vてあげる」の特徴

やりもらいの3つの表現はどれも話し手から見たできごとの表し方で、Vの動作を恩恵として表現します。「Vてもらう/Vてくれる」は、話し手が、恩恵の受け手の

気持ち、つまり喜びや感謝を表します。「Vてあげる」は、話し手が、恩恵の与え手の気持ち、つまり「相手が好き

ただし、「Vてあげる」を会話の中で使う際は注意が必要です。なぜなら、会話の相手が恩恵の受け手である場合、話し手が聞き手の感謝を待っているように聞こえるからです。とくに〈1〉〈2〉の例では、聞き手が目上なので失礼になります。

- 〈1〉社員：課長、雨ですから駅まで車で送ってあげます。
 - 〈2〉のように謙譲語を使うと失礼になりません。
 - 〈2〉社員：社長、雨ですから駅まで車で送ります。
 - 〈3〉学生：先生、黒板を消してあげましょうか。
- 先生を喜ばせたいときでも、目上の先生には「Vてあげる」を使わず、〈4〉のように言います。
- 〈4〉学生：先生、黒板を消しましょうか。
- ただし〈5〉のように目上の先生が使うことはあります。
- 〈5〉学生：このことばの意味がわかりませんが。
 - 先生：じゃ、大きい辞書を貸してあげましょう。

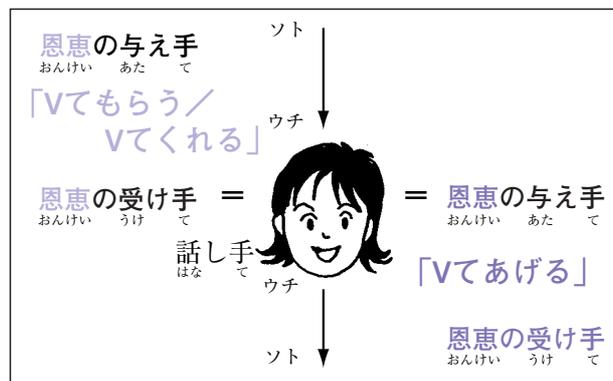
「Vてあげる」が使われるのはどんな場面か、さらに例を見てみましょう。

- 〈6〉社員A：雨だね。駅まで車で送ってあげようか？
 - 社員B：ありがとう。でも、今夜は残業なんだ。
 - 〈7〉母：あら、おしょうゆがないわ。困ったな。
 - 子：ぼくが買ってきてあげるよ。
- タマちゃんの例a、bも、おじいさんの例〈c〉もそうでしたが、〈6〉、〈7〉も恩恵の与え手と受け手とが、家族や友だちのような親しい関係です。恩恵といっても、相手が気楽に断れるようなことで、日常のくだけた場面で使うほうが使いやすいでしょ。

ところで次の例をどう思いますか。何だか変ですね。

- 〈8〉友だちが（私に）辞書を貸してあげました。（?）
- 〈9〉山田さんが（あなたに）車を貸してあげたの？（?）
- 〈8〉、〈9〉は次のように言えば、よく意味がわかります。
- 〈10〉友だちが辞書を貸してくれました。
- 〈11〉山田さんに車を貸してもらったの？

話し手=恩恵の受け手の場合や、話し手に近い立場の人（聞き手や話し手の家族など）=恩恵の受け手になっている場合は、「Vてくれる」や「Vてもらう」を使います。



上の図を見て、恩恵の与え手→受け手の方向が逆にならないように気をつけてください。

3. 恩恵の受け手

ここで、もう一度タマちゃんの例aをくわしくを見てみましょう。

- 〈12〉タマちゃんを飼ってあげる。（☞a）
- 「飼う」という動作の対象はタマちゃん、そのことで幸せになるのもタマちゃんです。〈13〉も同じ関係です。
- 〈13〉友だちを家に呼んであげる。
- 〈14〉父の車を洗ってあげる。
- 〈15〉赤ちゃんのミルクを温めてあげる。
- 〈16〉孫に絵本を読んであげる。（☞c）
- 〈17〉赤ちゃんに歌を歌ってあげる。

〈14〉、〈15〉では動作の対象は車やミルク、恩恵の受け手は車の持ち主である父や、ミルクを飲む赤ちゃんになっています。

〈16〉、〈17〉の動作の対象は絵本や歌ですが、恩恵の受け手は孫や赤ちゃんになります。

〈12-17〉では、下線部の「を」「の」「に」などの助詞で恩恵の受け手がわかります。

しかし、実際には場面や前後の関係で誰がうれしいのかがわかるので、これらは省略されることが多くなります（a-c、〈5-7〉）。

参考文献

文化外国語専門学校（1990）『文化初級日本語Ⅱ 教師用引書』p.63
 平井悦子、三輪さち子（2000）『みんなの日本語初級Ⅰ 文型練習帳』p.128 スリーエーネットワーク
 前号の参考文献も見てください。
 （前号の訂正：
 誤：『文化中級日本語Ⅱ』 正：『文化初級日本語Ⅱ』）